# 南海トラフ巨大地震が起こったら

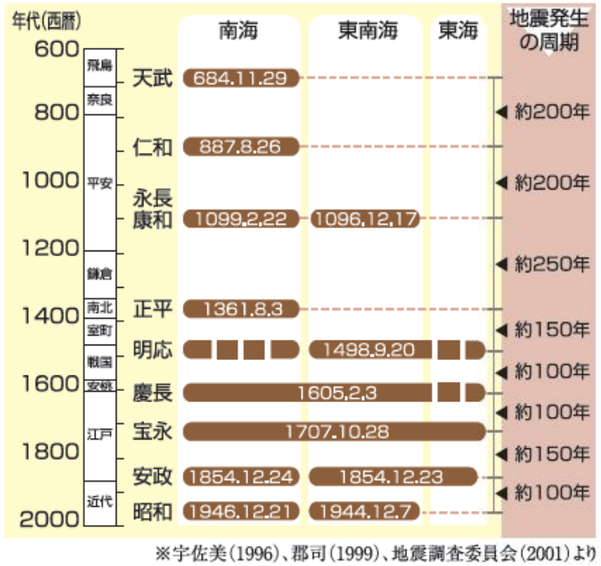
## ① 南海トラフ沿いの震源域

南海トラフとは、四国沖から東海沖の海底約4000メートルにある深い溝（トラフ）のことです。ここは、2つのプレートが衝突している場所で、非常に活発な地震発生帯となっています。これまでは東海地震、東南海地震、南海地震の3つの震源域に分けられていましたが、東日本大震災以降、3つの震源域を含めた広範囲の場所を震源とする巨大地震のモデルが検討されました。

## ② 地震は100年～200年周期

南海トラフにおける歴史上最も古い地震記録には、飛鳥時代684年の白鳳地震がありますが、その後、100年から200年周期に地震が発生しています。特に、江戸時代の1707年に起こった宝永地震は、東海、東南海、南海の3つの震源域が同時に動いた3連動地震で、東海地方から四国にかけて大津波が発生し、2万人以上の人が亡くなったと言われています。直近の地震は、1946（昭和21）年の昭和南海地震です。

今回想定されたマグニチュード9.0以上の最大クラスの地震は、発生頻度は極めて低いとされていますが、マグニチュード8～9クラスの地震については、今後30年の間に60%～70%の確率で発生すると言われています。

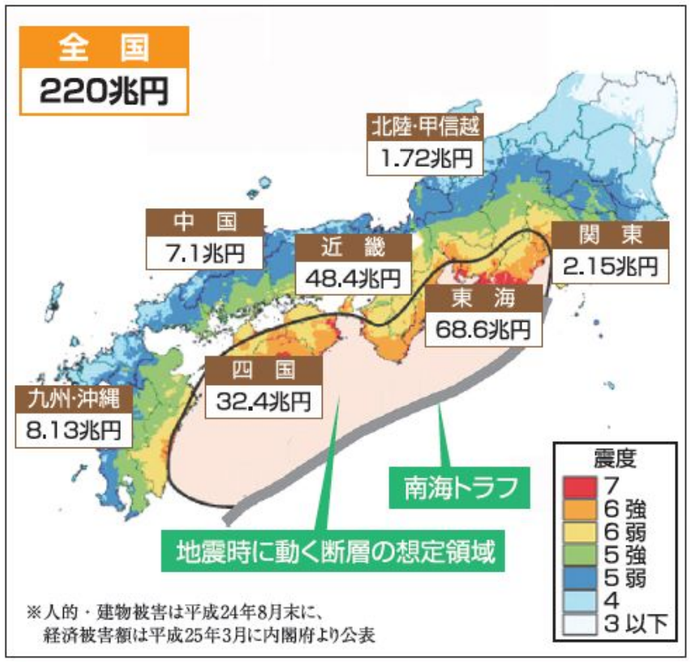



連動した地震であった可能性があるもの

※宇佐美(1996)、郡司(1999)、地震調査委員会(2001)より

## ③ 全国で死者32万人、220兆円の経済被害

南海トラフ巨大地震が起きたら、最悪のケースでは、マグニチュード9.0の地震が発生し、最大震度7の揺れと津波により、死者32万3千人、建物の全壊238万6千棟の直接被害のほかライフラインや交通障害など、全国で経済被害額は220兆円にのぼることが想定されています。




※人的・建物被害は平成24年8月末に、経済被害額は平成25年3月に内閣府より公表

### ■人的・建物被害

死者数
32万3千人

建物被害棟数(全壊・焼失)
238万6千棟

### ■経済被害

交通の寸断に起因するもの
6.1兆円

生産やサービスの低下に起因するもの
44.7兆円

建物や工場内の設備が被災する被害
169.5兆円

## ④ 岡山県、倉敷市の被害

岡山県は、昔から災害が少ないと言われていますが、1854年に発生した安政南海地震や1946年に起きた昭和南海地震では、地震の揺れや津波、液状化などにより建物倒壊や死傷者を伴う被害も発生しています。南海トラフ巨大地震では、岡山県全体で死者1,200人程度が発生することが推計されており、倉敷市では、最大震度6強、最大津波高3.2mなどが想定されています。

### ■国が公表した岡山県の南海トラフ巨大地震被害推計結果

| 死　者 | 建物倒壊 | 津波浸水面積 | 避難者数(1日) | 避難者数(1週間) |
|---|---|---|---|---|
| 1,200人 | 3万4,000棟 | 12.3㎢ | 10万人 | 25万人 |

※2012年8月内閣府公表

### ■倉敷市への影響

| 揺れの強さ | 液状化発生の可能性 | 津波の高さ |
|---|---|---|
| 最大震度　6強 | 市の広い範囲が「液状化の可能性が極めて高い」に分類 | 最大津波高　3.2m |

※津波の第一波(津波高約1.0m)の到達時間:地震発生から213分(2012年8月内閣府公表)　※2013年3月18日、3月22日岡山県公表